

# はくつちようさいけん 発掘調査体験 ・ いぶつせいりたいけん 遺物整理体験

日時：平成27年8月5日（水） 10:00～15:00  
主催：京都市・公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



## 1 なかとみいせき 中臣遺跡のあらし

中臣遺跡は、京都市山科区にある遺跡です。旧安祥寺川と山科川にはさまれた丘の上にひろがる遺跡で、昭和44年（1969年）にはじめて発見されました。それ以来、京都市文化財保護課や公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所がおもに調査をつづけています。

中臣遺跡では、これまでに縄文時代後期から江戸時代（約3000年前～200年前）までの人々がくらし生活のあと（遺構）がみつかっています。とても長くつづいた遺跡であるため、京都市では中臣遺跡をとくに重要な遺跡とし、大きな建物を建てたり、地面を深く掘

るときには試掘調査（遺構が残っているかどうかをたしかめる試し掘り）をするよう定めています。今回の発掘調査は、この試掘によって遺構が見つかったため、はじまりました。

これまでにみつかったおもな遺構は、大溝や柱のあと、土坑（大きな穴）などです。このうち大溝は、12世紀の終わりごろ（約800年前）に掘られたもので、南北の方向にまっすぐのびているところに特徴があります。なんのために掘られた溝なのかはまだわかりませんが、その時代に、それまでとはちがう形に土地を区画する大きな工事がおこなわれたと考えられます。



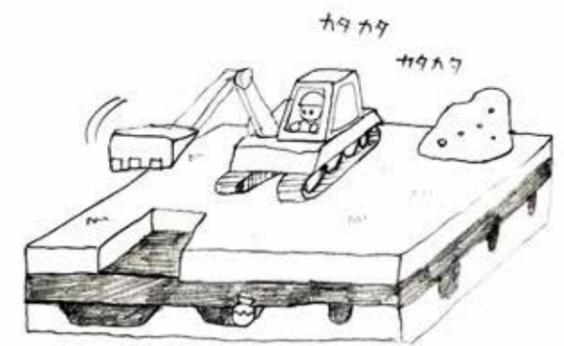
今回の発掘調査でみつかった大溝。黒くみえている部分が溝のあとです。

## 2 はくつちようさい 発掘調査のすすめかた

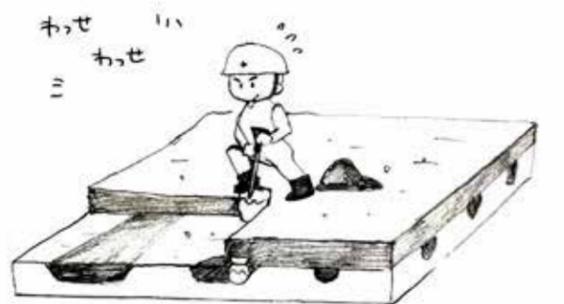
発掘調査には、発掘現場で土を掘る作業（現地調査）と、出土したものを整理する作業（整理作業）があります。どちらも、写真や記録をとりながら作業をすすめます。

### ■ 現地調査のすすめかた ■

- ① はじめに表面の土を、ショベルカーで掘ります。
- ② つぎに、人間の手で土を上層から順番に掘ります。スコップやジョレンをつかって、様子をみながら掘りすすめます。土器などの遺物が出てきたら、ひろって集めます。
- ③ 人間が生活したとおもわれる深さ（遺構面）まで掘りすすめたら、土の表面をきれいにけずります。土の色や砂の粒の大きさ、まじっているものなどに注目して、遺構をさがします。
- ④ 遺構が見つかったら、遺構のなかにたまった土を手ガリや手スコをつかって掘ります。ひとつの作業ごとに細かく記録をとります。
- ⑤ すべて掘りおわったら、埋めもどします。出土した土器などの遺物や、記録した図面は、すべてもち帰ります。



① 機械掘削……表面の土をショベルカーで掘ります。



② 人力掘削……人間の手で土を掘ります。

### ■ 整理作業のすすめかた ■

- ⑥ 出土した遺物は、種類ごとにわけてあらいま（洗浄作業）。土器や石器（石の道具）は、あらってかわかします。木器（木の道具）は、あらったあと、水につけたまましばらく保管します。鉄や銅などの金属器は、薬品であらいます。
- ⑦ 土器には、いつの発掘調査で出土したのかわかるように、番号を書きこみます（注記作業）。
- ⑧ ばらばらの破片をくっつけます（接合作業）。たりのない部分は石膏をかためて作り、色をぬります（復元作業）。
- ⑨ 図面や拓本、写真をとります（実測・拓本・撮影）。
- ⑩ 発掘調査の成果を本（報告書）にまとめます。この本には、現地調査で記録した図面や、遺物の図面、拓本、写真などをのせます。
- ⑪ 遺物を収納します。木器や金属器などのくさりやすいものは薬品につけて保存します。



③ 遺構検出……土をけずって遺構をさがします。



④ 遺構掘削……遺構のなかの土を掘ります。